

本日の聖書箇所は、イエス・キリストが洗礼を受けた場面です。注目すべきは、洗礼者ヨハネが民衆に次々と洗礼を授けている中で、その民衆に紛れるかたちでイエスは洗礼を受けていることです。さらに、洗礼を受けたイエスは祈っておられたのですが、そこに聖霊が降ってきて、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という神の声が聞こえたのでした。神の恵みのしるしである洗礼が民衆一人ひとりに施され、その中で神の御旨を求めているイエス・キリストに対して聖霊が降り、神の御旨が語られたのです。

洗礼は、神の子どもとして新しく生まれ変わるために必要なことです。それまでの自己第一の生き方から転換して、神第一の思考パターンへとシフトチェンジすることです。日常生活において神第一の思考に転換するためには、それまでの自分の価値観が相対化されなければなりません。例えば、お金が自分の中で一番上の価値観になっていたら、その一番上の価値観の座を神が占めているために、その他の様々な事柄が相対化されることとなります。ですから、二番目の価値観は三番目になりますし、順繰りに価値観が繰り下がり、それだけでなく神の前にすべてのことが相対化されるために、自分の執着していた価値観から解放されることとなります。しかし、だからと言って、一部の熱狂的な宗教のように、24時間神に祈りをささげることが求められるような生き方をする必要はありません。

横断歩道を渡るとき、青信号でも左右を見て、危ない運転をしている車が来ないかを確かめて横断するように、そのような日常生活を変える必要はありません。神第一の生活というと、神と対話をする孤独な時間と空間を設定することが必要だと考えがちですが、そういう必要は必ずしもありません。通勤電車の中でも、前日の自分の行動や考えを神の御旨に照らしてみても考え直してみることができるのです。この場合の神の御旨とは、イエス・キリストの生き方に倣うことです。悲しむ者と共に悲しみ、疲れた者に寄り添い、人間の尊厳を圧迫する者に対抗して平和を作り出す者となることです。

自己第一の生き方をしてきた者にとって、自己以外の存在を優先させることは難しい選択のように受け止められがちです。でも、イエス・キリストの生き方が模範です。幸いに福音書にイエス・キリストの生きざまはたくさん描かれています。また旧約聖書には神がイスラエルの民をエジプトから救い出す熱い思いが描かれていますし、イスラエルの民が何度も神から離反しても、その度に赦してご自分の民として迎え入れている様子が描かれています。そして、最終的な救いの決断として、わが子であるイエス・キリストをこの世に遣わして、ご自分を信じる者すべてを神の子として受け入れることを決断してください。

この神の決断の上に、洗礼があるのです。ですから、プロテスタントの自覚的信仰を十分尊重する一方で、御子イエス・キリストをこの世に遣わしてくださいと祈る神の恵みを無にしてしまわないように気をつけたいと思います。人の子として生まれたイエスが、時至って洗礼を受けることで、神の御旨に従う道へと歩みだしたように、私たちも洗礼をスタートラインとして神の御旨に従う道へと招かれています。イエスの洗礼の場面を

見ると、イエスだけが率先して洗礼を受けているのではなくて、洗礼者ヨハネの悔い改めの呼びかけに応じた民衆が一人ひとり洗礼を受けにやってきて、その中にイエスもおられたのです。洗礼者ヨハネの悔い改めの呼びかけは、神の招きの呼びかけでもあったのです。このように、神の恵みが先行して私たち人間に呼びかけられているのです。それに応答する者が洗礼へと招かれることになるのです。

いずれにしても、神の先行する恵みがあるのです。その先行する神の恵みが日常生活においても、信仰者それぞれに与えられているので、私たちはたとえ信仰から離れてしまった時があったとしても、神の導きから漏れることはないのです。もちろん、それはイエスが神の子であるにもかかわらず、先行する神の恵みのしるしとしての洗礼を受けているからです。そこに、イエス・キリストに倣う信仰者の生きざまのスタートラインが示されているのです。洗礼から始まった信仰生活は最終的に天に帰ることで完成するのですが、それまでの長い間、私たち信仰者は完全には自分の信仰を保つことはできませんので、私たち信仰者に先行する神の恵みの中で生きることになるのです。

また、洗礼を受けたのちは教会生活を送ることになります。教会生活は神を第一にすることだけを唯一、約束した人間たちが集まっているために、それぞれの相対化された価値観の違いが露わになる人間関係も出現します。そのようなとき、信仰を軸にしながらもそれぞれの信仰者の背後にある価値観が対立すると、神第一の信仰的な側面では見えていなかった各人の価値観の違いによって意見が分かれることが生じてしまいます。そのようなときこそ、キリストにある一致が求められるのですが、そのようなときにこそ、自分の考えに先行する神の恵みに思いをはせるべきです。日々、古い自分に死んで、先行する神の恵みに生かされているからこそ、新しく生まれ変わらされている自分を発見することができのです。信仰者同士の違いは、実は自分の信仰が神の恵みに対してどのような存在になっているかを知るうえで、とても大切な機会となるものです。

これまでの話を要約すると、洗礼を受ける人は自分の洗礼を受けたいと考える思いの前に、神が洗礼へと招いておられることをしっかりと受け止めて、自分中心の古い自分を「捨て去ること」が求められます。罪が洗い清められ、神の子であるイエス・キリストを「信じる」者へと生まれ変わります。そして、イエス・キリストの生き方に倣う者として、神の導きを受けながら歩む者へと日々つくり変えられていくのです。「古い自分を捨て去ること」「イエス・キリストを信じること」「イエス・キリストに倣うこと」によって、私たちの信仰生活はそれぞれの生活の中に根付いていくのです。